

十代で出家得度をし小僧から出発した人と、第二の人生で僧侶になった人の違いは歴然としているのが普通です。

何十年と下積み生活をし、副住職を経て住職へとなっています。僧侶は難関の国家資格ではありません。医学部はできるだけ若い人材を合格させる風潮は現実にはあるとのこと。人命に関わる職業であるため致し方無いことかと思われま

す。本来、僧侶は個人事業主にはなれません。なぜなら原則、宗派に属し、寺院に帰属しなければならないからです。僧侶の公認の教師資格を取得できたなら生涯、賦課金を納めることが義務付けられています。そして生涯、寺院に、師僧に仕え服従をしていくのが鉄則です。それができない場合は移籍か還俗しか道はありません。私度僧(注1)にならない限り生涯、宗派と寺院に身柄は拘束されることになります。

人は誰でもともすると傲慢になりがちです。気がついたらすっかり天狗になっていたという人を見かけることもあります。とかく僧侶は天狗になる人が多いのかもしれない。

これらを踏まえてもう一度、生涯一修行僧としてお勤めをしていく覚悟があるのか。自未得度先度他の心(注2)をお持ちかの確認を自問自答していただけますと幸甚です。よく初発心、百千万発(注3)といわれます。常に原点に帰ることが肝要です。

お布施とは個人でいただくものではなく常にご本尊、大恩教主本師釈迦牟尼仏に捧げるものという認識をお持ちください。浄財とは生きたお金です。諸仏を通じて浄化された金品をいただくわれわれ僧侶はそれを世のため人のために還元していかななくてはなりません。

それができない僧侶は罰当たりであり破戒僧です。だから僧侶には戒律があるのです。私が「僧侶の心得十カ条」を作成したことはその辺に意図があります。

今、時代は寺院消滅期であります。僧侶による不祥事も頻発しております。今こそ僧侶とはなにか、寺院とは何かを改めて問い直したいと自戒を込めて提言させていただきます。

令和元年12月16日

見性院住職 橋本 英樹

#### 注1)私度僧(しどそう)

定められた手続きや許可を得ることなく、私的に僧侶となった人。かつて古代の中国や日本では、課税を逃れるなどの目的で私度僧となるものが現れ、違法とされた。

#### 注2)自未得度先度他(じみとくどせんどた)の心

利他の心。自分のことより、まず他の人を優先に物事を考えようとする心。

#### 注3)初発心、百千万発

悟りを求めて修行の決心をする、その決心を百千万発せよ、という道元禅師の言葉。

初心を忘れることなく、自分の務めを成し遂げる決心を常に繰り返すこと。